

学位論文要約

小学校社会科における「概念カテゴリー化学習」の授業構成  
－学習指導過程の構築の理論と実践－

広島大学大学院教育学研究科博士課程後期  
学習開発専攻（カリキュラム開発分野）

D136151 新谷 和幸

## I. 論文題目

小学校社会科における「概念カテゴリー化学習」の授業構成  
ー学習指導過程の構築の理論と実践ー

## II. 論文目次

序章 本研究の目的と意義

- 第1節 研究の動機と目的
- 第2節 研究の意義と論文構成

第I部 「概念カテゴリー化学習」の授業構成の理論と方法

第1章 概念の名辞を探究する意義

- 第1節 概念の名辞と命題の関係性
- 第2節 カテゴリー化における概念の名辞の役割
- 第3節 学習対象となる概念とその選択規準

第2章 「概念カテゴリー化学習」の学習方法理論

- 第1節 類推ー同定によるカテゴリー化の手法
- 第2節 カテゴリーの階層性に着目した「概念のカテゴリー化」
- 第3節 「概念のカテゴリー化」で扱う概念と類型
- 第4節 児童の発達段階と「概念のカテゴリー化」で扱う類型

第3章 「概念カテゴリー化学習」の学習指導過程論

- 第1節 学習方法理論を生かすための方途
- 第2節 学習指導過程と各段階の内容構成

第II部 「概念カテゴリー化学習」の授業開発と分析

第4章 「具体ー具体型」授業の開発と分析

- 第1節 「具体ー具体型」授業の特徴と授業開発の視点
- 第2節 概念「特産物」に着目した第4学年単元「黒鯛いつタイどうなるの!？」の授業開発
- 第3節 概念「ロングセラー商品」に着目した第5学年単元「やめられない変わらない!？かっぱえびせん♪」の授業開発
- 第4節 「具体ー具体型」の授業実践に関する分析

## 第5章 「具体－抽象型」授業の開発と分析

第1節 「具体－抽象型」授業の特徴と授業開発の視点

第2節 概念「公共財」に着目した第4学年単元「焼け野原に響くプレーボール」の授業開発

第3節 概念「信頼」に着目した第5学年単元「世界のMAZDA」の授業開発

第4節 「具体－抽象型」の授業実践に関する分析

## 第6章 「抽象－具体型」授業の開発と分析

第1節 「抽象－具体型」授業の特徴と授業開発の視点

第2節 概念「正義」に着目した第4学年単元「正義の見方！？アンパンマン」の授業開発

第3節 概念「文化遺産」に着目した第3学年単元「和shock！？」の授業開発

第4節 「抽象－具体型」の授業実践に関する分析

## 第7章 「抽象－抽象型」授業の開発と分析

第1節 「抽象－抽象型」授業の特徴と授業開発の視点

第2節 概念「相互依存」に着目した第3学年単元「おいしい！？広島カキ」の授業開発

第3節 概念「復興」に着目した第6学年単元「万博から見る日本の復興」の授業開発

第4節 「抽象－抽象型」の授業実践に関する分析

## 終章 概念の名辞を基盤とした小学校社会科カリキュラムの検討と今後の課題

第1節 本研究の要約

第2節 「概念カテゴリー化学習」に対応した小学校社会科カリキュラムの基本的視座と構造

第3節 今後の研究課題

### Ⅲ. 論文要旨

#### 序章 本研究の目的と意義

本研究は、小学校社会科の概念学習として、概念の名辞（カテゴリー）を探究する新たな学習方法理論を開発し、その理論を実証するための概念の設定や学習指導過程の構築、並びに学習方法理論の類型に基づく具体的な授業開発・実践を通して、今後の小学校社会科教育における有効な授業構成の理論や方法について明らかにすることを目的とする。

これまで社会科教育研究では、事物・事象の一般性・法則性に関する知識（概念の命題）に対し、科学的思考を用いて問題解決的に探究する学習を概念探究学習としてきた。この学習で達成される転移・応用可能な科学的・概念的知識の獲得は、子どもの社会の見方や考え方を育むとされ、社会認識形成において意義ある学習方法原理として認知されている。

他方、小学校社会科の目標では、中等とは異なり、児童の発達段階を考慮し身近な具体である常識的概念を通して、社会を概略的にとらえることに主眼が置かれる。そのため、必ずしも児童が解釈内容として科学的・概念的知識を作り出す必要はない。また、教育内容として概念的知識の獲得をめざす場合も、それを導き出す帰納・演繹といった科学的思考は、児童自身がそれらを自覚し随意的に行うことができる発達段階でなければならず、小学校段階の思考方法として難しい。つまり概念探究学習は、児童が社会科を学習する上で、発達段階を考慮した小学校社会科の目標に迫る教育内容・方法としての困難性が高い。

そこで本研究では、小学校社会科における概念学習の課題を改善する手立てとして概念の名辞に着目し、児童の発達段階に適した小学校社会科の目標に迫ることのできる科学的な学習方法理論を開発することで、授業開発・実践を通して小学校社会科で概念の名辞を探究する意義を実証的に解明することにした。

#### 第Ⅰ部 「概念カテゴリー化学習」の授業構成の理論と方法

##### 第Ⅰ章 概念の名辞を探究する意義

本論文では、本研究の所期の目的を達成するために、以下の手順で論じた。

第Ⅰ部では、まず社会諸科学の成果を基に、概念の名辞と命題の関係性や概念の特性について言及した（第Ⅰ章＞第Ⅰ節）。その後、概念の名辞を探究する学習を成立させる上で、概念の名辞を認知機能のカテゴリーとする科学的手法（カテゴリー化）に着目した。認知心理学におけるカテゴリー研究の歴史的経緯を踏まえながら、社会科教育研究における概念のとらえ方や概念の命題を探究する学習方法との違いについて検討し、小学校社会科概念学習における課題との関連性や概念の名辞が果たす役割について示した（第Ⅰ章＞第Ⅱ節）。また、小学校社会科の目標や児童の発達段階の観点から、習得をめざす概念の名辞として科学的概念だけでなく、常識的概念を含めて探究する必要性についても言及した。これにより、中等教育で概念の命題を探究する学習の基盤として、小学校段階で概念の名辞を探究して学ぶ意義を明らかにするとともに、その学習を「概念カテゴリー化学習」として提起した（第Ⅰ章＞第Ⅲ節）。

## 第2章 「概念カテゴリー化学習」の学習方法理論

次に、「概念カテゴリー化学習」の授業構成理論を考える上で、概念の名辞によってカテゴリー化を促す手立てとして類推－同定という思考活動に着目し、児童が活用する上での有効性や具体的な手立てを示した（第2章＞第1節）。これを基に、概念の名辞から習得をめざす概念を導き出す方法として、「これって〇〇（学習材名・概念名）だけ？」という発問や具体物等の提示を行いながら、カテゴリーの階層性を生かして類推－同定を繰り返し、包摂的にカテゴリー化を行う方法を明らかにした（図1）。これを「概念のカテゴリー化」と定義し、「概念カテゴリー化学習」の学習方法理論とした（第2章＞第2節）。

また、「概念のカテゴリー化」で扱う概念を具体概念と抽象概念に区分し、学習材から概念を導き出す包摂関係を基に、「具体－具体型」、「具体－抽象型」、「抽象－具体型」、「抽象－抽象型」の4つの類型を構成し、「概念カテゴリー化学習」の授業類型として示した（第2章＞第3節）。さらに、児童の発達段階に適した類型を検討することで、児童の社会の見方が育むよう、「概念カテゴリー化学習」の体系化を図った（第2章＞第4節）。

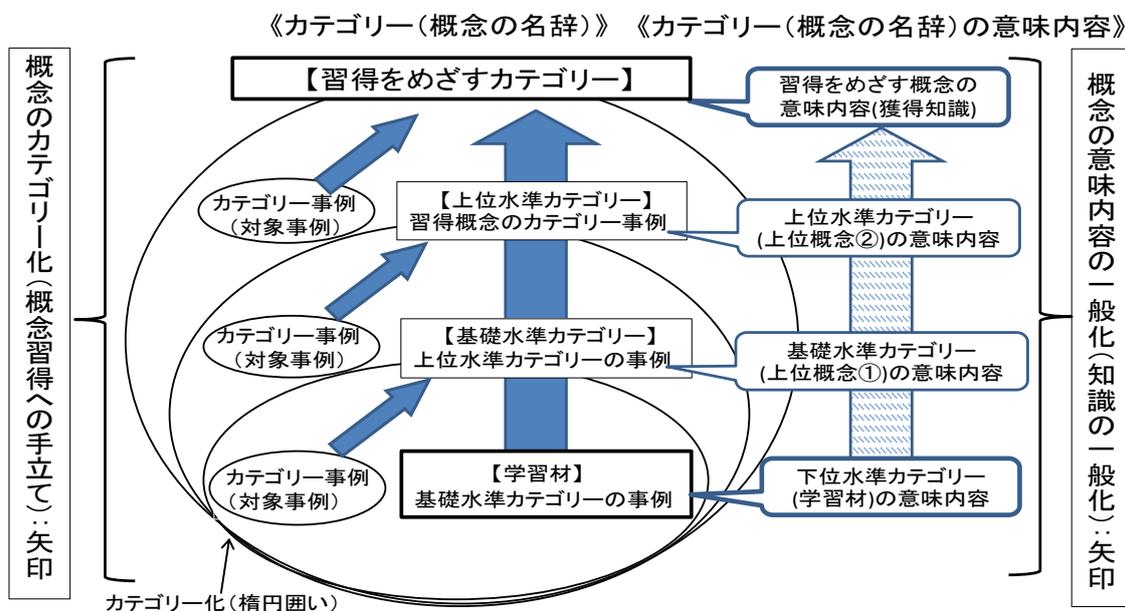


図1. 概念のカテゴリー化のモデル (筆者作成)

## 第3章 「概念カテゴリー化学習」の学習指導過程論

最後に、「概念カテゴリー化学習」の授業開発・実践を可能とする上で、学習指導過程の検討を行った。児童が「概念のカテゴリー化」を有効且つ円滑に行うことができるよう、まず有意味受容学習の先行オーガナイザーの働き（説明作用・比較作用）に着目し、その特徴やこれまでの社会科教育学研究との関連性について示した。その後、「概念のカテゴリー化」を先行オーガナイザーの観点から考察した。その結果、「概念のカテゴリー化」では先行オーガナイザーの形成・活用を繰り返し行うことで、最終的に形成した習得概念の意味内容を社会に有意味なものとして児童に認識させている点を明らかにした（第3章＞第1節）。そこで「概念のカテゴリー化」を円滑に働かせながら、児童が学習材から習得をめざす概念の有用性をとらえ社会や自己の生活を見つめ直す学習となるよう、学習材



## 第Ⅱ部 「概念カテゴリー化学習」の授業開発と分析

### 第4章～第7章 各類型における授業開発と分析

第Ⅱ部では、第Ⅰ部で構成した授業構成理論に基づき、章ごとに各類型の特徴や授業開発の視点を明らかにするとともに（各章＞第1節）、「概念のカテゴリー化」や学習指導過程の構造も踏まえ、各類型の具体を2つずつ単元レベルで提示した（各章＞第2節・第3節）。その後、授業実践に関する分析を行い、授業記録や記述内容における児童の変容から、概念の名辞を探究する学習としての「概念カテゴリー化学習」の有効性について示した（各章＞第4節）。

第4章では、「概念カテゴリー化学習」のスタンダードな類型として「具体－具体型」について論じた。ここでは可視化できる常識的概念同士のカテゴリー化であるため、概念にあたるものを具体物として提示でき、概念だけでなく「概念のカテゴリー化」の方法もとらえやすい点を指摘した。具体として、概念「特産物」の獲得をめざす第4学年単元「黒鯛いっタイどうなるの!？」と概念「ロングセラー商品」の獲得をめざす第5学年単元「やめられない変わらない!？かっぱえびせん♪」を開発し、授業実践・分析内容を示した。

第5章では、「具体－具体型」の発展型として「具体－抽象型」について論じた。ここでは可視化できる常識的概念から、可視化できない常識的概念や下位に位置づく科学的概念である抽象概念の獲得をめざす。獲得概念が関係や状態、性質といった事物の属性となる場合、“こういう関係を何と言うの?”等の発問を工夫したり、概念の関係性を図化して示したりする必要性を指摘した。具体として、概念「公共財（公共）」の獲得をめざす第4学年単元「焼け野原に響くプレーボール」と概念「信頼」の獲得をめざす第5学年単元「世界のMAZDA」を開発し、授業実践・分析内容を示した。

第6章では、「抽象－具体型」について論じた。この類型では、「具体－抽象型」とは逆に、単元の導入で着目し簡易的に導き出した抽象概念とその仮説的な意味内容を起点としながら、「概念のカテゴリー化」によって下位の具体概念を充足していく形式とした。児童は具体概念を包摂する抽象概念の意味内容を深化・更新していくことで、抽象概念を社会における重要な概念として認識できる点を指摘した。具体として、概念「正義」の獲得をめざす第4学年単元「正義の見方!？アンパンマン」と概念「文化遺産」の獲得をめざす第3学年単元「和 shock!？」を開発し、授業実践・分析内容を示した。

第7章では、「具体－抽象型」の発展型として、「抽象－抽象型」について論じた。先の「具体－抽象型」と同様、具体概念から抽象概念を導き出していく。しかし、その時可視化できる具体概念から可視化できない常識的概念ではなく、科学的概念の下位を構成する抽象概念を導き出していく。その後、抽象概念同士のカテゴリー化を行うことで、最終的に科学的概念の獲得をめざす点を指摘した。具体として、概念「相互依存」の獲得をめざす第3学年単元「おいしい!？広島カキ」と概念「復興」の獲得をめざす第6学年「万博から見る日本の復興」を開発し、授業実践・分析内容を示した。

### 終章 概念の名辞を基盤とした小学校社会科カリキュラムの検討と今後の課題

最終的に、第Ⅱ部での8実践の分析結果を踏まえ、小学校社会科において概念の名辞を探究する学習の有効性を示すとともに、獲得すべき概念の名辞や今後のカリキュラム編成

の方向性について示唆し、カリキュラム案を作成した。本研究の結論は、次の三点である。

第1に、小学校社会科概念学習における概念の名辞を探究する学習の必要性である。

本研究では、児童の発達段階や小学校社会科の目標における小学校社会科概念学習の課題を改善し得る方法として、概念の名辞（カテゴリー）とカテゴリー化を用いた学習方法に着目し検討した。その結果、小学校段階において概念の名辞を認知機能のカテゴリーとして学ぶ重要性や、児童が概念の名辞を科学的方法で獲得する上での①類推—同定という思考活動、②カテゴリーの階層性を生かした包摂的カテゴリー化（概念のカテゴリー化）、③反証事例を用いた批判的学習過程の必要性、を明らかにした。この概念の名辞（カテゴリー）を探究する学習を「概念カテゴリー化学習」と提起し、その学習指導過程も含め、児童の発達段階に適した小学校社会科の目標に迫る科学的な授業構成理論として示した。さらに8つの授業開発・実践における授業記録や児童の記述内容の分析を通して、「概念カテゴリー化学習」の有効性を実証できた。これにより、小学校社会科の目標や児童の発達段階に即した、概念の名辞を探究する学習の必要性を示している。

第2に、小学校段階で概念の名辞を探究する学習を行う上で、習得をめざす概念の名辞として科学的概念だけでなく、常識的概念を含めて探究する必要性である。

小学校社会科では、児童の身近な具体を基に社会を概略にとらえることに主眼を置く。そのため科学的概念に限らず、常識的概念を含み込んで概念の名辞を探究する必要がある。そこで必要となるのは、科学的な方法で習得させていくことである。本研究では、「概念のカテゴリー化」という科学的な学習方法理論を構築し、常識的概念の名辞を探究する授業も開発・実践した。授業分析の結果、児童が概念のカテゴリー化を通して概念を獲得し、それを社会の有用な概念ととらえ、自己の生活や存在を見つめ直す児童の変容を明らかにした。このことは、小学校社会科で常識的概念の名辞を扱う必要性を示している。

第3に、社会科概念学習の系統性を踏まえ、中等社会科における概念探究学習の基盤として、小学校段階で「概念カテゴリー化学習」を行う必要性である。

これまで社会科教育研究では、概念の命題を探究する概念探究学習が子どもの社会の見方・考え方を育む上で重要とされてきた。しかし、小学校社会科における概念の命題を探究する学習の課題に伴い、社会科概念学習における系統的な学習方法という観点からも困難性が生じていた。本研究では、概念における命題と名辞の表裏一体の関係性を示し、常識的概念も含めた概念の名辞を通して、社会の概略や社会における概念の重要性をとらえる「概念カテゴリー化学習」の意義を明らかにした。また、概念の内包や包摂関係を基に4つの授業類型を設定し、具体性のある常識的概念、抽象性のある常識的概念、抽象性の高い科学的概念と、「概念カテゴリー化学習」を通して習得する概念や学習方法の系統性を示した。これは、常識的概念から科学的概念へ、概念の名辞から概念の命題の探究へと、社会科概念学習における系統的・段階的な学習が可能であることを示している。

今後の研究課題として、次の3点が挙げられる。

第1に「概念カテゴリー化学習」の授業開発・実践を積み重ね、授業構成理論の有効性・実証性をより高めていくこと、第2に授業開発・実践を通して導き出した概念の質的傾向を分析・検討し、「概念カテゴリー化学習」を基盤とした小学校社会科カリキュラム案を再構築すること、第3に再構築したカリキュラム案を踏まえ授業開発・実践を重ね、小学校社会科で習得する概念を精選し、汎用性の高いカリキュラムに改定すること、である。

#### IV. 参考文献

- 1 マイケル. W. アイゼンク編(1998)野島久雄・重野純・半田智久(訳)『認知心理学事典』新曜社.
- 2 朝尾直弘・宇野俊一・田中啄編(1996)『角川新版日本史辞典』角川書店.
- 3 朝倉淳(2008)『子どもの気付きを拡大・深化させる生活科の授業原理』風間書房.
- 4 安彦忠彦(2014)『コンピテンシー・ベースを超える授業づくりー人格形成を見すえた能力育成をめざしてー』図書文化.
- 5 阿部齊・内田満・高柳先男編(1999)『現代政治学小辞典新版』有斐閣.
- 6 阿部健一(2009)「地産地消から知産知消へーつながりという『関係価値』ー」窪田順平編『モノの越境と地球環境問題』昭和堂, pp. 179-211.
- 7 阿部健一(2012)『生物多様性ー子どもたちにどう伝えるか』昭和堂.
- 8 阿部健一(2013)「価値を問うー『関係価値』試論」立本成文編『人間科学としての地球環境学』京都通信社, pp. 41-81.
- 9 飯田卓(2014)「『文化遺産の人類学』とはなにか」『民博通信』No.145, 国立民族学博物館, pp. 8-9.
- 10 飯田卓(2016)「文化遺産の継承におけるオーセンティックな変更・変容」『民博通信』No.153, 国立民族学博物館, pp. 4-9.
- 11 石井英真(2015)『今求められる学力と学びとはーコンピテンシー・ベースのカリキュラムの光と影ー』日本標準.
- 12 市位和生(2007)「子どもの素朴概念を科学化・相対化する社会科授業ー小学校第6学年の単元『武士とは何か』の開発と分析を手がかりにー」全国社会科教育学会編『社会科研究』第66号, pp. 31-40.
- 13 市川伸一(1995)『学習と教育の心理学』岩波書店.
- 14 市川伸一(2001)『学ぶ意欲の心理学』PHP新書.
- 15 稲垣佳世子・波多野誼余夫(2005)『子どもの概念発達と変化ー素朴生物学をめぐるー』共立出版株式会社.
- 16 稲垣佳世子(2007)「概念変化：知識の大幅な組み換え」『新訂認知過程研究ー知識の獲得とその利用ー』放送大学教育振興会, pp. 32-42.
- 17 井上尚美(1977)『言語論理教育への道ー国語科における思考ー』文化開発社.
- 18 今井賢一(1984)『情報ネットワーク社会』岩波新書.
- 19 伊豫谷登士翁(2002)『グローバリゼーションとは何かー液状化する世界を読み解くー』平凡社新書.
- 20 岩崎まさみ(2012)「無形文化遺産保護条約の概要とその意義」『年報新人文』第9号, 北海学園学術情報リポジトリ, pp. 99(53)-75(77).
- 21 岩田一彦(1991)『小学校社会科の授業設計』東京書籍.
- 22 岩田一彦(1993)『小学校社会科の授業分析』東京書籍.
- 23 岩田一彦(1994)『社会科授業研究の理論』明治図書.
- 24 岩田一彦(2001)『社会科固有の授業理論・30の提言ー総合的学習との関係を明確に

- する視点一』明治図書.
- 25 浮田典良編(2004)『最新地理学用語辞典』原書房.
- 26 内山節(2005)『「里」という思想』新潮選書.
- 27 内山節(2012)『内山節のローカリズム原論ー新しい共同体をデザインするー』農文協.
- 28 内山節(2014)『主権はどこにあるかー変革の時代と「我らが世界」の共創』農文協.
- 29 梅原猛(1976)『日本文化論』講談社学術文庫No. 22, 講談社.
- 30 浦野正樹・大矢根淳・吉川忠寛編(2007)『復興コミュニティ論入門』弘文堂.
- 31 江原絢子(2015)「ユネスコ無形文化遺産に登録された和食文化とその保護・継承」『日本調理科学会誌』 vol. 48, No. 4, pp. 320-324.
- 32 江村裕文(2003)「文化の定義のための覚書ー文化その1ー」『異文化論文編』第4号, 法政大学国際文化学部企画広報委員会, pp. 112-123.
- 33 遠田燁彦(1993)『ロングセラー商品長生きの秘密』エール出版社.
- 34 遠藤薫(2007)『間メディア社会と〈世論〉形成ーネット・劇場社会ー』東京電機大学出版局.
- 35 圓丸哲麻(2015)「リレーションシップ・マーケティングと関係性マーケティングの比較研究ー信頼概念からの考察ー」『麗澤経済研究』第22巻, 麗澤大学経済学会, pp. 1-2.
- 36 Ausubel&Robinson (1969) "School leaning", 吉田章宏・松田弥生(訳)(1984)『教室学習の心理学』黎明書房.
- 37 太田昌宏(2007)『ヒット商品が面白いほど開発できる本』中経出版.
- 38 大友秀明(2014)「社会科教育における『文化学習』の意義と可能性」『埼玉大学紀要(教育学部)』第63巻第1号, 埼玉大学教育学部, pp. 253-266.
- 39 大庭潤也(2008)「子どもの『わかり方』を踏まえた小学校社会科授業モデルの構築ー社会的構成主義に基づく単元開発を通してー」全国社会科教育学会編『社会科研究』第68号, pp. 41-50.
- 40 鹿毛雅治(2013)『学習意欲の理論ー動機づけの教育心理学ー』金子書房.
- 41 片上宗二・木村博一・永田忠道編(2011)『混迷の時代!“社会科”はどこへ向かえばよいのかー激動の歴史から未来を模索するー』明治図書.
- 42 加藤寿朗(2007)『子どもの社会認識の発達と形成に関する実証的研究ー経済認識の変容を手がかりとしてー』風間書房.
- 43 金子宏・新堂幸司・平井宜雄編(2008)『法律学小辞典』第4版増補版, 有斐閣.
- 44 鴨武彦・山本吉宣編(1988)『相互依存の理論と現実』有信堂.
- 45 川上昭吾・渡邊康一郎(2010)「日本における有意味受容学習の研究」『理科教育学研究』, 第50号, pp. 1-14.
- 46 川崎賢一(2013)「記念講演 文化のグローバル化と日本の問題」『国際文化研究科論集』第21号, pp. 21-39.
- 47 河野靖(1995)『文化遺産の保存と国際協力』風響社.
- 48 川本隆史(2005)『ロールズー正義の原理ー』講談社.

- 49 スーザン・ケアリー(1994)小島康次・小林好和(訳)『子どもは小さな科学者かー J. ピアジェ理論の再考ー』ミネルヴァ書房.
- 50 岸学(2000)「先行オーガナイザー」日本教育工学会編『教育工学事典』, pp. 341-342.
- 51 木田元編『哲学キーワード事典』新書館, p. 80-81.
- 52 木村博一(1990)「授業研究と授業構成ー地域学習の進め方ー」伊東亮三編『社会科教育学』福村出版, pp. 87-112.
- 53 木村博一・岡崎社会科授業研究サークル編著(1995)『農業を学ぶ授業を創る』黎明書房.
- 54 木村博一・岡崎社会科授業研究サークル編著(2002)『「高齢者福祉」を学ぶ授業の探究』黎明書房.
- 55 木村博一編著(2002)『初等社会科教育学』協同出版.
- 56 木村博一編著(2006)『“グローバル化”をめぐる論点・争点と授業づくり』明治図書.
- 57 木村博一(2006)『日本社会科の成立理念とカリキュラム構造』風間書房.
- 58 熊倉功夫・江原絢子(2015)『和食とは何かー和食文化ブックレット ユネスコ無形文化遺産に登録された和食ー』思文閣.
- 59 熊倉功夫「ユネスコ無形文化遺産に登録された本当の理由」(2016)『ヘルシスト』No. 226, ヤクルト, pp. 2-7.
- 60 国立教育政策研究所(2013)平成24年度プロジェクト研究報告書『社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原則〔改訂版〕』教育課程の編成に関する基礎的研究報告書 5.
- 61 国立教育政策研究所(2013)平成22~25年度国立教育政策研究所・独立行政法人国際協力機構共同調査研究『諸外国の教育課程と資質・能力ー重視する資質・能力に焦点を当ててー』教育課程の編成に関する基礎的研究報告書 6.
- 62 国立教育政策研究所(2014)平成25年度プロジェクト研究報告書『資質や能力の包括的育成に向けた教育課程の基準の原理』教育課程の編成に関する基礎的研究報告書 7.
- 63 後藤晶(2013)「協力行動と公共財ゲームに関する一考察ー経済学実験および心理学実験を中心にー」『山梨英和大学紀要』第12号, pp. 32-48.
- 64 児玉修(2009)「社会科授業における問いの対比的構造」全国社会科教育学会編『社会科研究』第70号, pp. 11-20.
- 65 フィリップ・コトラー&ケビン・レーン・ケラー(2008)月谷真紀(訳)『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント基本編』ピアソン・エディケーション.
- 66 小原友行(1995)「社会認識形成の『論理』と『心理』ー社会授業構成の原理を求めてー」社会系教科教育研究会編『社会系教科教育の理論と実践』清水書院, pp. 10-21.
- 67 小原友行編著(2017)『アクティブラーニングを位置づけた小学校社会科の授業プラン』明治図書.
- 68 ロバート・コヘイン, ジョセフ・ナイ(2012)滝田賢治(訳)『パワーと相互依存』ミネルヴァ書房.

- 69 駒谷昇一・山川修・中西通雄・北上始・佐々木整・湯瀬裕昭(2011)『情報とネットワーク社会』オーム社.
- 70 佐藤章浩(2010)「小学校社会科における経済概念の形成ー第3学年単元『スーパーマーケットのひみつをさぐる』を事例にー」全国社会科教育学会編『社会科研究』第73号, pp. 41-50.
- 71 佐藤卓巳(2006)『メディア社会ー現代を読み解く視点ー』岩波新書.
- 72 佐藤卓巳(2008)『輿論と世論ー日本的民意の系譜学ー』新潮選書.
- 73 佐藤卓巳・渡辺靖・柴内康文編(2012)『ソフト・パワーのメディア文化政策ー国際発信力を求めてー』新曜社.
- 74 佐長健司(2009)「社会科教育内容の状況的検討ー概念的知識のディコンストラクションー」『社会科研究』第71号, pp. 1-10.
- 75 塩沢茂(1987)『商品の寿命ー短命化時代のロングセラーの秘密ー』PHP研究所.
- 76 嶋口充輝(1994)『顧客満足型マーケティングの構図』有斐閣.
- 77 下中邦彦編(1971)『哲学事典』平凡社.
- 78 下中邦彦編(1982)『広島県の地名』日本歴史地名大系35巻, 平凡社.
- 79 社会認識教育学会編(2003)『社会科教育のニュー・パースペクティブー変革と提案ー』明治図書.
- 80 社会認識教育学会編(2006)『社会科教育の構造改革ーニュー・パースペクティブに基づく授業開発ー』明治図書.
- 81 社会認識教育学会編(1994)『社会科教育学ハンドブックー新しい視座への基礎知識ー』明治図書.
- 82 社会認識教育学会編(2012)『新社会科教育学ハンドブック』明治図書.
- 83 社会認識教育実践学研究会編著(2008)『社会科認識教育実践学の構築ー岩田一彦先生御退職記念論叢ー』東京書籍.
- 84 白石さや(2013)『グローバル化した日本のマンガ・アニメ』学術出版社.
- 85 杉村健(1997)『カテゴリー化の実験的発達研究』風間書房.
- 86 関満博・財団法人日本都市センター編(2007)『新「地域」ブランド戦略ー合併後の市町村の取り組みー』日経広告研究所.
- 87 関満博・遠山浩編(2007)『「食」の地域ブランド戦略』新評論.
- 88 関三穂編(1979)『燃える赤ヘル軍団広島カープ球団史』恒文社.
- 89 全国社会科教育学会編(2011)『社会科教育実践ハンドブック』明治図書.
- 90 全国社会科教育学会編(2015)『新社会科授業づくりハンドブック小学校編』明治図書.
- 91 全国社会科教育学会編(2015)『新社会科授業づくりハンドブック中学校編』明治図書.
- 92 E・B・タイラー(1962)比屋根安定(訳)『原始文化』誠信書房.
- 93 多鹿秀継編(1994)『認知と思考ー思考心理学の最前線ー』サイエンス社.
- 94 田中利幸, ピーター・カズニック(2011)『原発と広島ー「原子力平和利用」の真相ー』岩波ブックレットNo.819.
- 95 田中治彦・杉村美紀(2014)『多文化共生社会におけるESD・市民教育』ぎょうせい.
- 96 棚橋健治(1983)「社会科カリキュラム開発における『構造』概念についてータバ社会

- 科を手がかりにして」『教育学研究紀要』第28巻，中国四国教育学会，pp. 297-299.
- 97 棚橋健治(2000)「子どもの可能性を伸ばす社会科学習評価の在り方」『学校教育』2月号，No.991，広島大学附属小学校学校教育研究会，pp. 18-23.
- 98 棚橋健治(2002)『アメリカ社会科学習評価研究の史的展開－学習評価にみる社会科の理念実現過程－』風間書房.
- 99 棚橋健治(2004)「子どもの学力を保障する社会科の授業づくり」『学校教育』12月号，No.1044，広島大学附属小学校学校教育研究会，pp. 6-11.
- 100 谷口勲(2006)「中学校社会科公民的分野『経済』単元の授業開発－先行オーガナイザーとしての『家計簿』を教材として－」兵庫教育大学大学院修士論文.
- 101 谷口千吉監督(2005)DVD「公式長編記録映画日本万国博覧会」ジェネオンエンタテインメント.
- 102 田村明(1999)『まちづくりの実践』岩波新書.
- 103 中国新聞社編(1976)『V 1 記念広島東洋カープ球団史』広島東洋カープ.
- 104 中国新聞社編(1999)『カープ50年－夢を追って－』中国新聞社.
- 105 都留重人編(2002)『岩波小辞典経済学』岩波書店.
- 106 寺崎克志(2006)「国際公共財概念に関する一考察」『目白大学総合科学研究』第2号，pp. 33-43.
- 107 笥田知義・尾崎ムゲン・若原道昭編(2000)『教育の原理と課題』昭和堂.
- 108 東洋工業株式会社(1960)『東洋工業四十年史』東洋工業株式会社.
- 109 徳永栄一編(1970)『日本万国博覧会－人類の進歩と調和－』上下巻，国際情報.
- 110 ジョセフ・S・ナイ(2004)山岡洋一(訳)『ソフトパワー－21世紀国際政治学を制する見えざる手－』日本経済新聞出版社.
- 111 長岡文雄(1990)『授業をみがく－腰の強い授業を－』黎明書房.
- 112 中沢啓治(1982)『はだしのゲンはピカドンを忘れない』岩波ブックレットNo. 7，岩波書店.
- 113 中沢啓治(1984)『はだしのゲン－青麦ゲン登場の巻－』第1巻，汐文社.
- 114 中沢啓治(1984)『はだしのゲン－麦はふまれるの巻－』第2巻，汐文社.
- 115 中沢啓治(1994)『はだしのゲン自伝』教育史料出版社.
- 116 Keiji Nakazawa(2004)『Borefoot Gen』vol. 1, Last Gasp of San Francisco.
- 117 中沢啓治(2008)『はだしのゲンはヒロシマを忘れない』岩波ブックレットNo.735，岩波書店.
- 118 中沢啓治(2012)『はだしのゲンわたしの遺書』朝日学生新聞社.
- 119 永田忠道(2006)『大正自由教育期における社会系教科授業改革の研究－初等教育段階を中心に－』風間書房.
- 120 中村和夫(2004)『ヴィゴツキー心理学－「最近接発達領域」と「内言」の概念を読み解く－』新読書社.
- 121 中山元監修・峰島旭雄編(2008)『比較思想事典』東京書籍.
- 122 中山元(2011)『正義論の名著』ちくま新書.
- 123 新谷和幸(2006)「市民性を育む単元構成－第4学年みんなでつくろうコイするまち

- 広島！プロジェクトC（CARP）の実践かー」 広大附属東雲小学校編『小学校教育に求められる基礎・基本を問う』東洋館出版社，pp. 66-75.
- 124 新谷和幸（2007）「社会を見つめ暮らしに生きる産業学習」全国社会科教育学会年報『社会科教育論叢』第46集，pp. 16-21.
- 125 新谷和幸（2012）「情報化社会の意識化を目指した情報単元の開発－災害時における防災ネットワークの情報伝達を中心に－」『平成23年度教育研究初等教育小学校・中学校9年間の学びがつながる授業づくりのあり方』広島大学附属東雲小学校，pp. 24-27.
- 126 新谷和幸（2013）「原発をめぐる世論形成を取り上げた情報単元の開発－原発導入時と大飯原発再稼働時に着目して－」『平成24年度教育研究初等教育小学校・中学校9年間の学びがつながる授業づくりのあり方』広島大学附属東雲小学校，pp. 24-29.
- 127 新谷和幸（2014）「小学校社会科における『概念カテゴリー化学習』の授業構成－概念の名辞とカテゴリー化の手法に着目して－」全国社会科教育学会編『社会科研究』第80号，pp. 57-68.
- 128 新谷和幸（2014）「小学校社会科における『概念カテゴリー化学習』の有効性－授業分析による授業理論の検討－」韓国社会科授業学会編『社会科授業研究』第2巻第2号，pp. 107-134.
- 129 新谷和幸（2015）「社会科における『概念カテゴリー化学習』の学習指導過程－信頼概念の獲得をめざした第5学年単元『世界のMAZDA』を事例に－」，日本教科教育学会編『日本教科教育学会誌』第38巻第3号，pp. 91-101.
- 130 新谷和幸（2016）「企業のグローバル戦略に着目した社会科授業の開発」『平成27年度教育研究初等教育』広島大学附属東雲小学校，pp. 28-39.
- 131 新谷和幸（2017）「『大名領国制』の観点から，信長・秀吉の天下統一と家康の江戸開府の要因に迫る授業の開発」『教育科学社会科教育』7月号，No.669，明治図書，pp. 42-45.
- 132 新谷和幸・中丸敏至・松岡靖・沖西啓子・伊藤公一・木村博一・永田忠道（2014）「グローバル社会に対応した国家・社会の構造を認識する社会科授業開発－附属小学校3校の共同研究の成果として－」『広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要』第42号，pp. 57-66.
- 133 新谷和幸・中丸敏至・伊藤公一・服部太・沖西啓子・木村博一・永田忠道（2015）「文化に焦点化した『グローバル社会学習』の授業開発－附属小学校3校の連携を生かして－」『広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要』第43号，pp. 153-162.
- 134 西岡加名恵（2003）『教科と総合に活かすポートフォリオ評価法－新たな評価基準の創出に向けて－』図書文化.
- 135 西田弘（1997）『ヒット商品を生み，ベストセラー，ロングセラーにするための条件』産能大学出版部.
- 136 西田芳弘（2005）「国際関係における文化の要素」『レファレンス』2月号，pp. 42-43.
- 137 日本教科教育学会編（2015）『今なぜ，教科教育なのか－教科の本質を踏まえた授業づくり－』文溪堂.

- 138 日本教科教育学会編(2017)『教科教育研究ハンドブックー今日から役に立つ研究手引きー』教育出版.
- 139 日本社会科教育学会編(2012)『新版社会科教育事典』ぎょうせい.
- 140 日本経済新聞社編(1992)『徹底分析長生き商品の秘密』日本経済新聞社.
- 141 博報堂地ブランドプロジェクト編著(2006)『地ブランドー日本を救う地域ブランド論ー』弘文堂.
- 142 波多野誼余夫・稲垣佳代子(1973)『知的好奇心』中公新書.
- 143 濱井信三(1967)『原爆市長ー広島とともに20年ー』朝日新聞社.
- 144 ピーター・ヴァン・ハム(2002)「ブランド国家の台頭」『論座』4月号, 朝日新聞社, pp. 288-294.
- 145 原田信男(2014)『江戸の食文化ー和食の発展とその背景ー』小学館.
- 146 広島市編(1993)『広島新史ー行政編ー』広島市.
- 147 広島市編(1994)『広島新史ー社会編ー』広島市.
- 148 広島市議会(1997)『広島市議会史ー議事資料編Ⅱー』広島市議会.
- 149 廣松渡・子安宣邦・三島憲一・宮本久雄・佐々木力・野家啓一・末木文美士編(1998)『岩波哲学・思想事典』岩波書店.
- 150 平林千春(1991)『定番商品のマーケティング』ビジネス社.
- 151 古川治(2017)『ブルームと梶田理論に学ぶー戦後日本の教育評価論の歩みー』ミネルヴァ書房.
- 152 松岡靖・新谷和幸・長野由知・沖西啓子・中丸敏至・安松洋佳・木村博一・前田俊二(2012)「災害社会学の成果を踏まえた社会科新単元『防災ネットワーク』の開発ー広島大学附属小3校による共同研究を通してー」『広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要』第40号, pp. 123-128.
- 153 丸山哲央(2010)『文化のグローバル化ー変容する人間世界ー』ミネルヴァ書房.
- 154 三浦展(2005)『下流社会ー新たな階層集団の出現ー』光文社新書.
- 155 ウーゴ・ミズコ(2013)「公共財としての遺産ー歴史的建造物の公共性についてー」『パブリックな存在としての遺跡・遺産ー平成24年度遺産等マネジメント研究集会(第2回)報告書ー』奈良文化財研究所, pp. 10-15.
- 156 水野将樹(2003)「心理学研究における『信頼』概念についての展望」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第43巻, pp. 185-195.
- 157 見田宗介・栗原彬・田中義久編(1988)『社会学事典』弘文堂.
- 158 皆川順(2001)『概念地図法による知識獲得支援の研究』風間書房.
- 159 村山涼一(2008)『売れる21の法則』中経出版.
- 160 森分孝治(1978)『社会科授業構成の理論と方法』明治図書.
- 161 森分孝治・片上宗二編(2000)『社会科重要用語300の基礎知識』明治図書.
- 162 森分孝治(2000)「社会的なものの見方考え方の拡大・進化・体系化」広島大学附属小学校学校教育研究会『学校教育』11月号, 第1000号, pp. 36-39.
- 163 森敏昭・井上毅・松井孝雄(1995)『グラフィック認知心理学』サイエンス社.
- 164 森敏昭編著・21世紀の認知心理学を創る会著(2001)『おもしろ記憶のラボラトリー』

- 北大路書房.
- 165 森敏昭編著・21世紀の認知心理学を創る会著(2001)『おもしろ思考のラボラトリー』北大路書房.
- 166 文部省(1947)『学習指導要領社会科編Ⅰ(試案)』.
- 167 文部科学省(2009)平成20年度版『小学校学習指導要領』.
- 168 文部科学省(2009)平成20年度版『中学校学習指導要領』.
- 169 文部科学省(2009)平成20年度版『小学校学習指導要領解説社会編』.
- 170 安野智子(2006)『重層的な世論形成過程ーメディア・ネットワーク・公共性ー』東京大学出版会.
- 171 安原智樹(2000)『入門ブランドマーケティングーロングセラー商品を創る実践手法ー』プレジデント社.
- 172 やなせたかし(2013)『わたしが正義について語るなら』ポプラ新書.
- 173 やなせたかし(2013)『アンパンマンの遺書』岩波現代文庫.
- 174 やなせたかし(2013)『何のためにうまれてきたの?』PHP研究所.
- 175 やなせたかし(2013)『ぼくは戦争は大きらいーやなせたかしの平和への思いー』小学館.
- 176 やなせたかし(1976)『あんばんまん』フレーベル館.
- 177 山内孝幸(2015)「営業における信頼概念に関する考察」『阪南論集社会科学編』第51巻第2号, pp. 23-24.
- 178 山上徹(2010)「文化の伝播と精神文化の輸入」『関東学院大学文学部紀要』No. 120・121, 関東学院大学文学部人文学会, pp. 1-19.
- 179 山上徹(2012)『食文化とおもてなし』学文社.
- 180 山岸俊男(1998)『信頼の構造ー心と社会の進化ゲームー』東京大学出版会.
- 181 山崎晃男(2001)「『教訓』の提示または算出による類推的問題解決の促進」日本教育心理学学会編『教育心理学研究』49巻1号, pp. 21-30.
- 182 山本昭宏(2012)『核エネルギー言説の戦後史1945ー1960ー「被爆の記憶」と「原子力の夢」ー』人文書院.
- 183 湯沢正通(1997)『階層的カテゴリーの機能とその発達ー子どもの理論形成, カテゴリー化, 帰納推理ー』北大路書房.
- 184 脇坂文昭他編(1977)『広島かき』広島かき出荷振興協議会.
- 185 渡部昇一編(1992)『ことばコンセプト事典』第一法規.
- 186 和田充夫(1999)『関係性マーケティングと演劇消費ー熱烈ファンの創造と維持の構図ー』ダイヤモンド社.